

名張の夏祭り

ギョンスン・花火・竹羊羹ようかん

- 1 本書「山の神・水の神・火の神」の項参照。
- 2 ここに掲げた各祭の実施日や状況については、事前に確認をして訪れて下さい。
- 3 祭神は従五位藤堂宮内少輔高吉・応神天皇。寛文十年（一六七〇）七月十八日に高吉が九十一歳で亡くなったのち、一族・家臣たちが邸内に遺徳を追敬し一祠を建て遺霊を祀っていたが、明治十一年一般参拝が許可となり、昭和十一年現在地に移転。社名は高吉の法号「徳運院殿徳翁壽米大居士」にちなむ。
- 4 もとは、印度の祇園精舎を守る神とされ、日本ではスサノオノミコト（須佐之男命）と習合したとされている。京都市の八坂神社は、明治以前は「祇園社」と称されており、災厄除去の行事である御霊会をはじめりとして、現在の祇園祭へと発展した。
- 5 愛知県津島市の津島神社は、東海五県を中心に全国で約三千社余の分霊社があるといわれている。京都の祇園社との直接的な関連は不明である。江戸時代には御師と呼ばれる神社付属の神人らが天王信仰の普及につとめ、各地に「津島講」が結成された。
- 6 新町の辻家。台所帳（嘉永七年・一八五四）によれば、邸内の祇園様は六月七日から祭礼に入り、十四日を「祇園会」として提灯などの明かりを掲げ諸衆の参詣を迎えたとある（『名張の歴史（名張市中）』上巻・昭和三十五年）。

- 7 『錦生の年中行事』（平成九年・錦生地区民俗資料調査委員会）
- 8 宇流富志禰神社のお旅所（本書「名張の秋祭り」の項参照）と同じ域内に祀られている（本書「山の神・水の神・火の神」の項参照）。
- 9 元町（旧名、瀬古手町）の築瀬稲荷神社は、文化三年（一八〇六）二月二十八日に宗泰寺に隣接した庚申堂の境内に町の鎮守として勧請されたもの。



愛宕神社の祭（新町）

名張地方の伝統的な祭りは、農耕生活に密着し、その年の無事と豊作を祈る春祭りや豊かな稔りへの感謝を行なう秋祭りが行われます。秋祭りの方が盛んですが、夏季には疫病・病虫害・風水害の災いを除去するため、また干天の続く日々に「雨乞い踊り」という臨時の祭礼行事が行われてきました。

新しく造成された団地でも、夜店を並べ、踊りを楽しむ夏祭りが、地域の人々の手で実施されています。

旧来の「夏祭り」は、七月十二日の秋葉祭にはじまり、二十四日の愛宕祭に終わるとされてきました。現在では、規模縮小や中止、実施日が土・日曜を選んで行われるなど変化も見られますが、一方では「町おこし」の環として盛り上げに取り組んでいる町もあります。それらのいくつかを掲げましょう。

七月七日七夕祭（上八町）、十一日祇園祭（榊町・集議所）、十二日秋葉祭（松崎町・秋葉愛宕神社）、十四日祇園祭（瀬古口・稲荷神社）（美旗中村・大福寺境内）（新田・美波多神社）（下小波田・中止）、旧六月十四日祇園祭（下比奈知・名居神社）（上比奈知・国津神社）（滝之原・国津神社）（安部田坂ノ下・薬師堂）、七月十五日祇園祭（東田原・津嶋

神社）・両社八幡祭（東町・両社八幡宮）、十六日築瀬稲荷祭（元町・築瀬稲荷神社）、十八日寿栄神社祭（丸之内）、二十四日愛宕祭・花火大会（新町・愛宕神社及び名張川河畔）

右のうち、寿栄神社祭は、「シシャカさん」と訛って称されている寿栄神社の例祭で、青竹の筒にトコロテンを詰め、笹葉の上に並べて売られる冷やし竹羊羹が名物となっていました。この日は、名張藤堂家の初代である藤堂高吉公の命日にあたっており、もとの夏祭りではありませんが、すっかり名張の風物詩として定着しました。なお、竹羊羹は東町の両社八幡祭、瀬古口の祇園祭でも売られています。

祭り名を見ると、「祇園祭」の多いことがわかります。「祇園祭」としては、京都市八坂神社が有名ですが、この地方へもいつの頃からか祇園信仰の広まりとともに、牛頭天王を祀ることが行われ、祭が始まったことと考えられます。瀬古口の氏神さんは稲荷神社ですが、境内に祇園社が鎮まっています。

その一方で、東田原には津嶋神社が祀られています。津嶋の本社としては、提灯の明かりで飾られた桒車船の「天王まつり」で

著名な愛知県の津島神社があります。尾張の「天王さん」と京都の「祇園さん」のいずれの影響が名張地方に及んだのか不明ですが、名称は「祇園祭」が圧倒的です。当地方での「ギョンスン」（祇園さんの祭り）では、境内に提灯を掲げ、「ウチワ取り」が行われます。昔は、大人も子どもも混ざって団扇が荒々しく奪われていました。また、安部田坂之下のように、等身大の藁人形に衣装を着け飾られるという所もあります。

夏祭りの見ものの一つに花火があります。七月二十四日に、新町が中心となって行われる愛宕祭と、それに続く花火大会は浴衣を着た人たちが埋めつくされます。大和郡山からの「金魚すくい」をはじめ様々な露店が並びこの日は、近隣の市町村や奈良県からも見物の人々が訪れます。

愛宕祭は、新町から松明行列が出発し、新町・黒田両橋を通過して対岸へ渡り、少し下流から川中を越えて愛宕神社へ至り祭典が行われます。境内では四角に積んだ組み木に火がつけられ、いよいよ花火が打ち上げられます。花火大会は、昭和五年（一九二〇）十一月の参宮急行電鉄（現近鉄）の開通を記念し、翌年より電鉄会社の協力で創出されたもので、

現在は商工会議所が中心となり地元商店等の協賛を得て実施されています。太平洋戦争前は、沿線で唯一の花火大会として知られており、昭和十七年に戦争のため中断しましたが、昭和二十二年に復活し現在に至っています。

なお、東町の両社八幡祭も打ち上げ花火のある夏祭りとして知られていますし、以前は寿栄神社の祭礼でも行われていました。元町の築瀬稲荷祭は、二月の初午祭とともに七月に例祭が行われ、かつては野菜市、竹羊羹の販売、金魚すくいなど賑わいをみせた町場の祭りで、現在では規模を小さくしながらもその趣が継承されています。

名張の夏祭りは、城下町であった市街地を中心に行われ、見物人の多くで都市型の祭礼として、時代の流行を取り入れながら行われてきたのが特徴といえましょう。

（櫻井 治男）